

## 木下 晋 きのしたすすむ

- 1947 富山県富山市に生まれる。本名は、木下進
- 1961 美術教師の目に留まり、夏休みに初の彫刻作品を造る機会を得、先生に富山大学の大瀧直平(彫刻家)を紹介される。大瀧の市民講座に通う。大瀧の紹介で東京に住む彫刻家の木内克と出会う。
- 1964 木内克から、洋画家麻生三郎を紹介される。  
クレヨン画「起つ」が自由美術協会展入選(東京都美術館)
- 1965 富山県立婦負農業高校食品化学工業科(現：富山西高校)を二年生で退学、看板屋に就職  
油彩画「カルタ取り」が自由美術協会展に再入選(東京都美術館)  
この頃、画家 鶴岡政男(自由美術協会員)、本間正義の知遇を得る
- 1969 詩人、美術評論家の瀧口修造の知遇を得る。画家の小山田二郎を知る
- 1970 妻の実家に結婚を反対され、富山から新潟へ駆け落ち
- 1972 画家、麻生三郎の紹介で、現代画廊オーナーで美術評論家の洲之内徹と出会う
- 1973 渡欧。ゴッホ、レンブラント、ミケランジェロ、ダ・ヴィンチ等の作品に大きな影響と示唆を受けた
- 1977 埼玉県川口市に転居
- 1981 初渡米し、アメリカでの作品発表を企図するが失敗  
ニューヨークのソーホー、川島猛のアトリエで開かれたパーティーで荒川修作と出会う  
帰国後、美術評論家の洲之内徹に新潟県笹神村の「石水亭」に誘われる。帰京のバスに乗り遅れ、偶然瞽女小林ハルの唄を聴き、衝撃を受ける  
ニューヨークでの挫折体験から自身のオリジナリティとして「鉛筆画」を探究する過程で小林ハルと出会い、「鉛筆画家」への方向性が決定的となった  
母をモデルにした鉛筆画「流浪」を完成
- 1983 小林ハルをモデルとした初めての絵が完成
- 1989 注連寺の天井画が完成
- 1999 東京大学工学部建築学科講師に就任(～2008)
- 2001 武蔵野美術大学造形学部油絵科講師に就任(～2008)
- 2003 新潟薬科大学講師に就任(～2008)
- 2009 金沢美術工芸大学大学院専任教授に就任(～2014)
- 2013 紺綬褒章を受章。武蔵野美術大学客員教授に就任
- 2014 金沢美術工芸大学客員教授に就任

2019 春、制作拠点を東京都町田市から神奈川県相模原市に移転

## 主な展覧会

- 1966 第二回中央展出品郷土作家展(富山県民会館美術館)に出品
- 1979 日本洋画巨匠異才展出品
- 1983 埼玉県浦和市の埼玉県立近代美術館、初の国際招待出品となる「現代のリアリズム展」に出品
- 1984 広島平和美術展出品。G&G アソシエーション登録
- 1986 富山県立近代美術館の「日本海美術展」に出品
- 1989 新潟市立美術館の「新潟 100 年展」に出品  
宮城県美術館、岩手県の萬鉄五郎記念館の「洲之内コレクション展」に出品
- 1990 愛媛県久万高原町立久万美術館で「洲之内、井部コレクション展」を開催  
富山県立近代美術館「富山の美術」に出品
- 1992 山形県鶴岡市の松ヶ丘記念館の「千歳コレクション展」に出品
- 1995 東京目黒区美術館、広島現代美術館、兵庫県立近代美術館、福岡県立美術館の「戦後文化の軌跡 1945-1955」に出品
- 1997 目黒区美術館、兵庫県立美術館、成羽町美術館、愛媛県立美術館の「気まぐれ美術館一州之内 撤と日本の近代美術展」に出品  
上海美術館の「日本現代作家作品展」に招待出品
- 2001 神戸市のギャラリー島田で「木下晋・ラインハルトサビニル二人展」を開催  
香川県の直島コンテンポラリーアートミュージアム「スタンダード展」に出品
- 2003 高知県の武内光仁アトリエで「木下晋・武内光仁 二人展」を開催
- 2004 東京・森美術館「六本木クロッシング展—日本美術の新しい展望 2004」に出品、草間彌生と出会う
- 2006 石川県立美術館「黒の迷宮 凝視の刻」展に出品
- 2007 東京目黒区美術館「線の迷宮〈ラビリンス〉II—鉛筆と黒鉛の旋律」に出品  
熊本市現代美術館「ATTITUDE 2007 人間の家—真に歓喜に値するもの」に出品
- 2008 大阪の国立国際美術館の「アジアとヨーロッパの肖像展」に出品
- 2010 香川県他『瀬戸内国際芸術祭 2010 アートと海を巡る百日間の冒険』に参加
- 2014 石川県立美術館「革新の視座」展に出品  
熊本市現代美術館で「鉛筆のチカラ—木下晋・吉村芳生展」開催
- 2016 大阪国立国際美術館「エッケ・ホモ—現代の人間像を見よ」に出品
- 2017 栃木県足利市ギャラリー碧で「ゆきゆきて、心を重ねる」と題した草間彌生、下川勝との三人

## 展を開催

平塚市美術館「リアル（写実）の行方」展に出品（以後足利、碧南、姫路を巡回）  
 北海道立函館美術館「ニッポンの写実 そっくりの魔力」に出品（以後豊橋、奈良を巡回）  
 宮城県気仙沼市リアスアーク美術館の「戦後日本文化発展の光と影展」に出品  
 ヨコハマトリエンナーレ 2017「島と星座とガラパゴス」に参加  
 愛媛県久万高原町立久万美術館「コレクション展 2 画家の「最期」と「最後」

- 2018 大阪中之島の国立国際美術館の「所蔵展」に出品  
 2020 大阪府の国立国際美術館「コレクションー現代日本の美意識」に出品  
 2022 新潟市美術館「LOVE&LIFE コレクションより愛をこめて」に出品  
 2023 東京国立近代美術館「所蔵作品展 MOMAT コレクション」に出品

## 主な個展

- 1969 東京・銀座で初の個展を開催(村松画廊)。  
 1972 銀座の櫟画廊で二回目の個展を開催。  
 1975 東京・銀座の現代画廊で初めての企画展「木下晋油絵展」を開催、以降 77、79、81、83、85  
 年の計 6 回開催  
 1987 東京六本木のストライプハウス美術館で個展を開催  
 1988 山形県酒田市の本間美術館で木下晋展(湯殿山注連寺天井画「天空之扉」下絵発表)を開催  
 1990 東京六本木のストライプハウス美術館で個展を開催  
 1991 パリのポアン JAL ギャラリーで個展を開催  
 晩秋、神戸元町の海文堂ギャラリーで個展を開催、中山正子(中山岩太夫人)と出会う（中山正  
 子は翌年 1 月に死去）  
 1992 ニューヨークの JAL ギャラリーで個展を開催  
 1993 東京六本木のストライプハウス美術館で個展を開催  
 1994 富山市のギャラリーNOW で個展「木下晋展 鉛筆画の世界」を開催  
 ニューヨークの KEEN ギャラリーで個展を開催  
 1995 山形県鶴岡市の致道博物館で「木下晋展」を開催  
 1997 静岡県伊東市の池田 20 世紀美術館で個展「木下晋 えんぴつの世界 1981-1997」を開催  
 1998 愛媛県久万高原町立久万美術館で「木下晋展 祈りの譜」を開催  
 1999 北海道鹿追町の神田日勝記念館で個展を開催  
 2002 神戸市のギャラリー島田で『生の深い淵から』画集出版記念、木下晋展を開催  
 2003 沖縄の左喜真美術館で個展を開催

- 2004 長野県駒ケ根市の駒ケ根高原美術館で個展「木下晋展」を開催
- 2005 長野県朝日村の朝日美術館で「木下晋展 剥ぎ取られた闇」を開催
- 2006 新潟市の砂丘館で「木下晋絵本原画展『ハルばあちゃんの手』」、新潟絵屋で「木下晋展」開催  
 沖縄・佐喜真美術館で「木下晋展—浮かび上がる内面世界」開催
- 2009 金沢美術工芸大学アートギャラリーで「木下晋の全貌の軌跡」を開催
- 2010 福岡市美術館で個展「木下晋展」を開催  
 「もうひとつの木下晋—ヒエログリフダイアリー」展(金沢美術工芸大学アートギャラリー)  
 三条市東公民館で「木下晋が描いた小林ハル展」を開催
- 2012 「木下晋展 祈りの心」(平塚市美術館、砺波市美術館) 開催
- 2013 東京銀座の永井画廊で「木下晋—祈り 展」開催  
 「木下晋展—生命の旅路」(埼玉県東松山市原爆の凶丸木美術館、沖縄県立博物館・美術館) 開催
- 2014 沖縄県立美術館で木下晋展「生命の旅路」開催  
 奄美大島の田中一村記念美術館で「木下晋絵本原画展」開催
- 2016 新潟市砂丘館で「木下晋絵本原画展『熊猫的故事』+はじめての旅」を開催
- 2017 東京銀座ギャラリー枝香庵で「木下晋展—表現の可能性」が開催
- 2018 名古屋画廊で「木下晋展」を開催  
 鎌倉市の gallery ジ・アースで「木下晋展 絵本『森のパンダ』原画を中心に」を開催
- 2019 石川県白山市のガレリア画廊で「木下晋展 視線のゆくえ」を開催  
 東京銀座ギャラリー枝香庵で「木下晋展 いのちを描く」を開催
- 2020 「木下晋展—いのちに触れる—」埼玉画廊
- 2022 みつけ市民ギャラリー ギャラリーみつけで「木下晋展 明日へ」を開催  
 池田記念美術館にて「驚きの鉛筆画 木下晋の絵本原画展」を開催
- 2023 胎内市美術館にて「木下晋展 神々しく美しいもの」を開催

## 出版

- 2000 『木下晋展 えんぴつの世界 記念対談集』(展覧会事業実行委員会)刊行
- 2002 著書『ペンシルワーク 生の深い淵から』(里文出版)刊行
- 2005 絵本『ハルばあちゃんの手』(福音館出版)刊行
- 2012 『木下晋画文集 祈りの心』(求龍堂) 刊行
- 2013 絵本『はじめての旅』(福音館書店) 刊行
- 2014 北京のブックフェアで『熊猫的故事』出版が発表される

- 2015 中国の二十一世紀出版社から野生パンダを描いた絵本『熊猫的故事』刊行
- 2017 絵本『森のパンダ』（講談社）刊行
- 2021 中国の浙江省少年儿童出版社から絵本「奶奶的除夕夜（おばあちゃんの大晦日）」刊行

## メディア掲載歴

- 1996 Paul Zelanski“Design Principles and Problems”. 全米大学テキストに作品写真と作家紹介が掲載される
- 2003 富山の北日本放送(KNB)で「しわわせ、人生」が放送される
- 2005 NHK の ETV で川端きんさん(ハルばあちゃんのモデル)を描く姿が放送される
- 2006 北陸中日新聞社に「心の時代」を週一回の連載開始(全 52 回)
- 2008 NHK ラジオ深夜便「母を語る～画家 木下晋」が放送される  
『美術手帖』『画家たちの美術史 (Vol.68) 木下晋』
- 2012 「3・11 が残した物」を『環』49 号（藤原書店）に発表  
NHK「日曜美術館」「孤独 闇 そして光を ～鉛筆の画家・木下晋～」が放送される
- 2013 永井画廊にて中村桂子と対談「生命と人間」（のち『環』54 号 に掲載）
- 2014 「パンダは可愛いかな？—中国四川省山岳地に棲息するパンダ訪問記」を『環』56 号に掲載
- 2015 「世界で誰もやっていないことを一美しき鉛筆のグラデーション」の記事が『望星』に掲載  
教科書『高校3年・美術』（日本文教出版、三村図書刊）に制作風景と作品が掲載される
- 2017 NHK「日曜美術館 特集「リアルの行方」」に出演  
『美術解剖学雑誌』に「特別講演 作品制作論」が掲載
- 2018 中学校の道徳教科書『あすを生きる』（日本文教出版）に合掌図が掲載
- 2019 NHK・ETV 特集「日々、われの日々—鉛筆画家 木下晋 妻を描く」放送

## その他

- 2013 埼玉県東松山市の原爆の図丸木美術館で水沢勉と対談
- 2014 沖縄県立美術館で青木新門と対談
- 2015 熊本市の法泉寺で「老いを見つめて」と題して山田太一と対談
- 2016 鎌倉市の曹洞宗松久寺で天井画「無」を制作  
京都市のギャラリーヒルゲートで「ミケランジェロは大いなる詐欺師」と題して講演
- 2018 小林古径記念美術館の宮崎俊英館長と対談
- 2019 ガレリア画廊の個展オープニングで島敦彦と対談。

枝香庵の個展でねじめ正一と約 40 年ぶりに再会、対談

## パブリックコレクション

東京国立近代美術館、国立国際美術館、神奈川県立美術館、兵庫県立美術館、横浜美術館、富山県美術館、石川県立美術館、新潟県立近代美術館、宮城県美術館、目黒区美術館、府中市美術館、福岡市美術館、平塚市美術館、沖縄県立美術館、湯殿山注連寺、富山県教育委員会、信濃デッサン館、本間美術館、致道博物館、町立久万美術館、池田 20 世紀美術館、新潟市美術館、高知県立美術館、ベネッセアートサイト直島、新潟県立万代島美術館、佐喜間美術館 他

参考：「いのちを刻む 木下晋」 編著 城島徹（藤原書店 2019 年）